

あなたの会社の

五年後の安全管理

は万全ですか？

(今から始める安全衛生管理担当者（後継者）育成)

- ・ 今、なぜ、担当者（後継者）育成か
- ・ 災害に対する企業の責任
- ・ 総括、統括安全衛生管理
- ・ 日々の安全衛生管理
- ・ 安全衛生担当者（後継者）育成プログラム

平成16年2月

全国造船安全衛生対策推進本部

安全衛生担当者（後継者）育成検討会

(2) 費用負担

造船業の労災保険料は 22/1000 で、機械器具や輸送用機械器具に比べ 10 ポイント以上高額の保険料を支払っています。当然労働災害の多発が保険料率に繋がっているためであります。

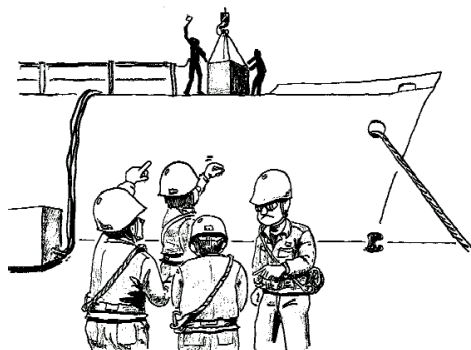
また、労働災害の対策に要する費用は、企業の利益からの支出であり、最悪死亡災害 1 件につき、数千万円から数億円もの単年度の損失になります。更に社会的責任に伴う損失は計り知れないものとなります。

3. 総括・統括安全衛生管理

企業は、企業に働く者を安全に働かせる義務を負います。(総括安全衛生管理)

この他、造船業ではその構内に多数の下請企業が作業しており、元請企業は下請企業を含めた安全衛生活動を展開する義務も負います。(統括安全衛生管理)

特に、統括安全衛生管理は、元請企業の統括安全衛生管理体制の整備にあわせて、下請企業との間において意志疎通、協議、災害防止活動の共同推進を図らなければなりません。結果、下請企業の災害は元請企業の災害と言っても過言ではありません。



4. 日々の安全衛生管理

安全衛生管理は、年間安全衛生管理計画策定に始まり、計画的な設備改善、教育、安全点検、各種協議会、官庁届け等多種多様の業務から成り立ちます。

事業主はこれらの業務を、日々計画・実行して災害の防止に努めなければなりません。しかし、多忙な事業主がこれらの業務を行うことは現実的には困難であります。

そこで、日々の業務を遂行する担当者が必要です。安全衛生担当者は先に述べた事業主が負う責任を確実に実行し、企業を四重責任から守る要となる人です。

安全衛生管理においては、災害の被害者は人であり、企業が存続する限り日々の安全衛生管理は永遠のテーマの一つであります。

5. 安全衛生担当者（後継者）育成プログラム

安全衛生担当者（後継者）が安全衛生管理を実践する為には、関係法令の理解や関係官庁対応、更には日常の安全管理や災害への対応等がありますが、これらの習得には相応の期間がかかります。

そこで、これらの業務をそれぞれの項目ごとに分かり易く整理し、現物をサンプル化した事例やマニュアルを織り込んだ他、関連する機関が持つホームページをリンクさせたプログラムを作成しました。

<安全衛生担当者（後継者）育成プログラム>

項目	収録内容	備考
安全衛生関連法令	・法体系の整理と考えを収録。	厚生労働省ホームページにリンク
安全衛生管理計画	・管理計画のサンプルを収録。	
日々の安全衛生活動サイクル	・始業から終業までの事例を収録。 (安全点検のポイントも収録)	安全点検システム活用事例収録
労災保険の申告と給付	・処理要領を収録。	
災害発生時対応	・対応事例等を収録。	
安全衛生教育	・造船3団体保有の資料名を収録。	
関係団体・機関	・安全衛生関連の団体・機関を収録。	厚生労働省・中災防等ホームページにリンク

< 最後に >

全船安の設立は、造船所における大型労働災害が頻発したこと等から労災保険収支率悪化が重大問題となりました。このため、造船業界の安全衛生管理水準の向上と労災保険収支率改善のため造船3団体により設立され現在に至っています。

今後造船業界がどのように変化していこうとも、そこに働く者の安全衛生を確保することは普遍であります。また、限りある企業の資源を効率的かつ有効に活用し、明日の安全衛生を担う者の育成も普遍であります。